

スウェーデン 環境ニュース

2002年 4月号 ページ1 / 3

規制強化でタラ資源を保全

スウェーデンにおけるタラの漁獲量が、この20年間で激減しています。全漁獲量のうち約85%はバルト海、残りはスウェーデン西側の海からのものです。タラ資源が危機的な状況にあることが明らかになったため、政府は漁業規制を最近強化しました。

以前から漁獲許可量の削減、夏期のタラ漁禁止や産卵海域の漁業禁止などの規制がありました。今回はさらに、タラ保全のためにニシン漁の規制を強化しました。これは、バルト海の西南部、エーランド（Öland）島やボーンホルム(Bornholm)島周辺で行われるニシン漁では、ニシンだけでなくタラの多くと一緒に網に入ってしまうことから、これを防ぐ狙いのものでした。このため、目の細かい網を利用して漁を行う場合、目的でないタラの捕獲量は全量の3%以下でなければならなくなりました。（去年までは、10%まで許可されていました。）

上記規制にもかかわらず、タラの被害が依然大きいため漁業庁は今回、前述の海域でのニシン漁を4月15日から5月31日の一定期間禁止する措置に踏み切りました。このためニシン漁は、より遠い海域のものに切り替えを余儀なくされました。また5月31日から8月末までは、バルト海全域でタラの漁獲が禁止になります。

さらに漁業庁は4月19日、全長18メートル以上の大規模漁船の造船に対する補助金制度を撤廃しました。スウェーデンの漁船が捕獲する魚の総量を減らし、長期的に魚資源を保全するのが目的です。

(DN紙 02/04/15, 漁業庁プレスリリース 02/04/15, 04/19)

タラ漁を全面禁止すべきか

環境党は2年間のタラ漁全面禁止を求めています。環境担当のマルガレータ・ウィンベリユ（Margareta Winberg）農業相は次のように反論し

ています。「バルト海の漁業権は毎年バルト海周辺国が交渉し振り分けるものです。スウェーデンは漁業権の20%を保有しており、毎年交渉において交渉諸国の中では最も魚資源を守る立場をとっています。去年はバルト海の漁業中止を提案しましたが、これは妥協せざるを得ませんでした。その代り、タラ資源管理計画の採択に成功しました。この計画はタラを長期的に保全することが目的です。もし単に一国のみが漁業を中止すれば、国際交渉の場にも参加できず、魚資源の保全主張が展開できなくなります。」

(環境党プレスリリース02/02/05、農業省プレスリリース02/04/19)

タラの不買行動を呼び掛ける

世界自然保護基金（WWF）は4月16日、農業省と消費者庁から資金を得て作成した「魚消費ガイド」を発行しました。このガイドでは、食用の魚介類資源の危機状況に応じ、スウェーデンの消費者が購入する魚介類に「信号マーク」を付けています。それぞれ、「赤」=買わないほうがよいもの、「黄色」=できるだけ避けたほうがよいもの、「緑」=買ってよいもの、と説明されています。話題のタラは「赤」マークになっているので、WWFは実質的にタラのボイコットを呼び掛けていることを意味します。

スーパーのチェーン店は、上記WWFの提案を受けて、今後仕入れ予定のタラの危機状況に注意することを発表しました。環境保護の積極的な取り組みで知られる生協スーパー、「コンスム」(Konsum)は、40センチ以下のタラは販売しないことを決定しました。これは、約40センチまで成長したタラは一度繁殖をしていると見なされ、それ以下のタラを保全しようというものです。

WWFの「魚消費ガイド」で「赤信号」マークが付けられている魚介類は以下の通り：

- ・ 熱帯地域からのエビ
- ・ サメ類
- ・ エイ類
- ・ オヒョウ (Hippoglossus hippoglossus)
- ・ ハドック (タラの種類)
(Melanogrammus aeglefinus)
- ・ 危機的な状況にある群体の野生のサケ (Salmo salar)
- ・ クロマグロ (Thunnus thynnus)
- ・ タラ (Gadus morhua)

つづく

スウェーデン環境ニュース

2002年 4月号 ページ2 / 3

1 ページからつづく

(DN紙02/04/16、WWFの「魚消費ガイド」、その他)

廃止碎石所がタラ養殖所に

隣国ノルウェーではタラの養殖産業が盛んですが、スウェーデンではまだ多くありません。そこで、西海岸に近いフンネボーストランド (Hunnebostrand) 市にある、使われなくなった碎石所でタラを養殖しようという10年間のプロジェクトが、ノルウェーからの出資により開始されようとしています。

タラは卵から成魚になるまで2年間かかります。卵を桶で孵化させ、しばらくしてから稚魚を30×40メートルの碎石所の中の人工池に放流します。放流の半年後、海中のカゴに移し約2年間で2・7キロの成魚に育てます。許可が下りれば8月か9月に事業が開始し、年間20トンのタラが出荷される予定です。

(Svensk Fisk漁業協会のホームページ 02/04/03、Göteborgsposten紙02/03/23、その他)

ちなみに、タラ漁の歴史について興味深い本を読みました。邦訳もあるのでお勧めします：「鱈～世界を変えた魚の歴史」、マーク・カーランスキー著、池央耿訳、飛鳥新社、1999年

ストックホルム市に 燃料電池の市バス

ストックホルム市は2003年末から2年間、3台の燃料電池バスを市バスとして実験的に導入する予定です。これはCUTE (=Clean Urban Transport for Europe= ヨーロッパのためのクリーンな都市交通) というEUプロジェクトの一環です。ヨーロッパ内で計27台の燃料電池バスが試行運転する予定です。

燃料電池バスの燃料である水素ガスは、太陽電池

の電力で水を電気分解して作る予定です。燃料電池バスは、排気ガスが主に水で構成されているので、非常にクリーンなバスと言えます。ストックホルム市の公共交通サービス会社、SL社が使う予定の同バスは、ダイムラー・クライスラー社製のものです。

(Ny teknik誌02/03/20、SL社ホームページ)

「国民太陽熱温水器」を普及

政府は、技術開発を目指す国際コンペと補助金制度で太陽熱温水器の普及に力を入れています。国際コンペはスウェーデンの指揮のもと、経済協力開発機構 (OECD) の国際エネルギー機関 (IEA) が主催したもので、国民に親しみやすい「国民太陽熱温水器」の開発促進により、太陽熱温水器の市場を拡大することが狙いでした。そしてこのコンペで優勝したのは、スウェーデンのウポノール (Uponor) 社でした。同社の受賞は2001年3月15日ですが、これは試作品だったので、その後の商品開発と厳しい品質検査を経て、消費者の手に実際に商品が届き始めるのは今年の5月からです。3,000以上の予約が既に入っているそうです。

ウポノール (Uponor) 社のUposun HW300という商品は、技術的に優れているだけでなく、その価格の安さが受賞の鍵の一つです。市場に出回っている既存商品が20,000-25,000クローネ (25万円～31万2500円) するのに対し、同社の商品は、一戸建て住宅に設置した場合は16,000クローネ (約20万円) で充分です。政府は2000年6月以降、住宅に設置する太陽熱温水器を対象に補助金を出しています。補助額は温水器の規模によりますが、一戸建て住宅の場合は約5,000クローネ (約6万2500円) です。つまり投資額としては11,000クローネ (約13万7500円) ですみます。(5,000-6,000クローネの取り付け工事費は別途かかります)。それまでの通常温水器が古くなり取り替えを検討する人にとっては、魅力的な価格であり、投資額は約5年間で回収することができます。

スウェーデン全国では、太陽熱温水器に切り替えが可能な住宅が50万戸あり、今後の節電の可能性は大きいものです。

ウポノール社は、フィンランドのウポノール・グループに属し、スウェーデンではボロース (Borås) 市近郊のフリースタド (Fristad) 市に工場拠点があるスウェーデン最大のプラスチックパイプメーカーです。

つづく

スウェーデン環境ニュース

2002年 4月号 ページ3 / 3

2ページからつづく

(Formas国立研究所02/04/11、Uponorホームページ、その他)

日本とスウェーデンの エコラベル基準の一部を統一

日本側が2000年2月に提案し、スウェーデン側がこれを受け入れたことから、北欧のエコラベル「白鳥マーク」の認定基準と日本環境協会が運営する「エコマーク」の認定基準の統一化が初めて成立しました。統一化の目的は、メーカーの申請手続きを簡素化し、負担を軽減することです。今回統一されたのは、複写機に関するもので、その基準の中核である、リサイクル、製品寿命、プラスチック添加物、エネルギー消費、騒音、排出（ほこり、オゾン、スチレン）に係わる部分です。日本製品が日本の「エコマーク」基準をクリアすれば、自動的に「白鳥マーク」もクリアしたことになるので、メーカーにとって便利なことです。

(「白鳥マーク」認定機関プレスリリース
02/04/16、その他)

環境教育の絵本2冊 日本語で出版

子ども対象の環境教育活動で知られる、ホル・スヴェリエ・レーント(Hall Sverige Rent=「スウェーデンをきれいに保とう」)財団の絵本2冊が日本で出版されました。同財団は、スウェーデン環境保護庁と、アルミ缶リサイクルを請け負うスヴェンスカ・レテュールパック株式会社(AB Svenska Returpack)によって設立された財団です。財団の活動は、ゴミ散乱防止の啓蒙から始まりましたが、現在は自然や環境の幅広い分野に拡大しています。保育所や小学校でよく利用される教育教材を作成したり、学校教員の養成講座を開いたりしています。

今回日本で出版された絵本の主人公は、小さな渡

り鳥、マダラヒタキのフロイドという名前の幼鳥です。1冊目の「森の中のフロイド」では、このフロイドが自然界を発見していく過程が描かれています。2冊目の「町に行くフロイド」では、人間の世界を発見していきます(さ・え・ら書房発行、マリー・メイエル(Marie Meijer)作、インゲラ・ペーテション(Ingela Peterson)絵、とやままり訳)。

問い合わせ先: Tel.03-3268-4261

<http://www.saela.co.jp/>

スウェーデン初の 「エコ農場観光ガイド」発行

今年1月、有機栽培などの事業を中心とするエコロジカルな農場における観光客向けの宿泊や観光活動を、まとめて紹介する初めての「エコ農場観光ガイド」が発行されました。スウェーデンの53農場が紹介されています。同ガイドを発行したのは、ヨーロッパ諸国でエコ農場観光を推進する国際組織、ECEAT(European Center for Eco Agro Tourism)のスウェーデン支部です。同組織はもともとオランダで設立され、現在ではヨーロッパ23カ国に支部があります。このガイドはスウェーデン語のみですが、他に北欧4カ国(スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、デンマーク)のエコ農場を紹介する「スカンディナヴィア・グリーン・ホリディ・ガイド(Scandinavia Green Holiday Guide)」では、スウェーデンの40農場が掲載されています。同ガイドは売れ切れのため再版準備中で、ECEATスウェーデンのホームページ(英文)で登録すれば、完成次第連絡が届きます:

www.eceat.nu

電子メール連絡先: eceat@idesmedjan.com
(Miljöeko誌02年2号、その他)

アーランダ空港に「水」展示会

ストックホルムのアーランド(Arlanda)空港に、写真家ハンス・ストランド(Hans Strand)氏の「水」をテーマにした巨大な写真作品が3月から6月まで展示されています。展示会は旅客に「水」の素晴らしさを考えさせるとともに、貧しい国の子供にきれいな飲み水を提供する募金活動を応援しています。国連児童基金(UNICEF)との共同企画です。

<http://www.artspace.se/>